

平成 31 年 4 月 入学式 式辞

ようやく春が訪れ、生命の息吹が感じられる季節となってまいりました。

本日、ここに平成三十一年度入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであります。

入学生のみなさん。ご入学、おめでとうございます。

全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。そして、これまでみなさんを支え成長を見守ってこられたご家族のみなさまにも、衷心よりお慶びを申し上げます。

また、ご来賓の皆さまにおかれましては、年度初めの大変お忙しい中、ご臨席賜り、誠にありがとうございます。

ただいま、大学 406 人、短期大学部 165 人、計 571 人の入学を許可いたしました。みなさんは、今から、兵庫大学・兵庫大学短期大学部の学生です。今日という日は、自らの進路をたくましく切り拓くための、成長の第一歩を刻んだ日でもあります。皆さんが兵庫大学・兵庫大学短期大学部で実り豊かな学生生活を築かれることを期待しています。

さて、本学の母体である学校法人睦学園は、大正十年、聖徳太子薨去千三百年を記念して創立された「太子日曜学校」が始まりとなっています。時代は第一次世界大戦後の不況や、関東大震災による天災など、混乱の時期でもありました。そのような中で、教育の大切さを願い作られた学校であります。

短期大学は、幼児教育を担う教員養成を行なうために、昭和二十九年に設置された幼稚園教員養成所が前身となっています。昭和二十九年というと、第二次世界大戦が終わり、混乱した社会も落ち着きを取り戻し始めた、そのような時期です。「人を育てる」という一貫した思いは、現在も受け継がれ、保育科におきましては、六十四年の伝統を持っています。

四年制の大学は、地元からの強い要請を受け、平成七年に設置されました。開学以来、二十三年の間に三つの学部と一つの研究科を増設し、現在は、大学院一研究科、大学四学部、短期大学は二学科からなる総合大学として、発展を遂げています。その間、約三万五千人もが本学を巣立って社会の第一線で活躍しています。

このような伝統の中で、本学が大切にしているのが、建学の精神です。

建学の精神とは、大学を設立する際、どのような目的で大学を創るのか、そして、どの

ような学校にしたいのかという思いを明示したものです。本学の建学の精神は、聖徳太子の「十七条憲法」第一条の「和を以て貴しと為す」に示された「和」です。自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にする、他者の思いを受け入れることを説いています。一言で表現すれば、「互いを尊び互いを活かしあう」ということです。

この考えは、本学の長い伝統の中で、変わらずに受け継がれてきました。「和」の精神を大切にしながら、さまざまな新しい取り組みに挑戦し、自らの未来を切り拓く力を養って頂きたいと思います。

今日、新しい学生生活がスタートします。勉強はもちろん、クラブ活動やボランティア活動などにも積極的に参加し、仲間と共に努力し、支えあい、分かち合う経験をたくさんしていただきたいと思います。学生生活は楽しいこと、苦しいこと、様々なことがあるでしょう。それらは全て、皆さんの人生の根となり、やがて大きな大輪の花になっていくものと信じています。

さて、本学では、人の気持ちに寄り添う温かい心を大切にでき、高度な専門技能を併せ持った人材を養成することを社会にお約束する言葉として、「ありがとうのプロフェッショナルへ。」という言葉掲げています。この言葉を、入学式にあたり、皆さんに贈ります。

「ありがとう」に
あふれる人生を送ってほしい、
それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、
仕事をさせていただくこと。
他者にこころを寄せ、
おたがいに認め合い大切にしあうこと。
そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。

すると、やがてあなた自身が
「ありがとう」という感謝の言葉を
いただくことができる専門家となります。
それこそが、私たちが目標とする
“ありがとうのプロフェッショナル”なのです。
私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。

----- 〈間〉 -----

皆さんが学生生活を送られる間にも、社会はめまぐるしく変化していきます。世の中の動きを敏感に感じ取り、色々な事柄にチャレンジし、大きく成長してください。みなさんが、こころ豊かな、充実した学生生活を送られることを念じまして、式辞といたします。

平成三十一年四月三日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真